

森は海の恋人(9 透き通ったきれいな海)

今年の1月～2月には縁あって鹿児島県の指宿に何度も行く機会を得ました。関西では知らない人はいないくらいの言わずと知れた温泉地ですが、お茶処としても有名で知覧茶というブランド名で親しまれています。僕の家でも長年鹿児島茶を愛飲しています。開聞岳の近くにある大野岳山腹一帯に広がる茶畑は常緑で整然としていてとてもきれいな風景です。

日本の海岸線のすべてを知っていると行っていい伊能忠敬が日本一の絶景と絶賛した番所鼻から開聞岳、長崎鼻にかけての海岸は景勝地として今もきれいな処です。とてもきれいなのですが、多少なりとも海を知っている者の目には少し違和感を感じさせるきれいさなのです。

大野岳山腹の茶畑の常緑のきれいさと同質のきれいさ。底が見えそうな透き通った海。CLEAN。生き物を感じさせないきれいさとでも言えば良いでしょうか。

大野岳山麓は以前はおそらく亜熱帯の森だったのでしょう。薩摩半島には縄文時代やそのまだ以前の旧石器時代の遺跡がたくさん発掘されています。旧石器人や縄文人が採集と漁労で生活が成り立っていたその森を開墾して茶畑にした。

森がなくなった畑の山に降った雨は地中をどんなふうにして流れて海に出るのか？おそらく地中深く浸み込むことなく、浅く地表をあっさりと流れていくのでしょう。森の養分を含む余裕なく。

どんな畑でも都会の消費者に届ける作物を栽培するためには農薬は必需品です。僕は全く農薬に詳しくありませんが特別無農薬栽培を売りにする畑以外は作物によって様々な農薬を使います。

その農薬は地中に含まれ雨水によってあっさりと海に流れ出ていることは容易に想像できます。

番所から開聞岳・長崎鼻にかけての海には実際魚は少ないそうです。漁をするなら薩摩半島の西側に行くか三島（竹島・黒島・硫黄島）まで行くと番所で会った漁師が言っていました。

それぞれの地域にはそれぞれの歴史がありそれぞれの事情があります。昔から稲作には不向きだったシラス台地のこの地の人々の選んだ生き方なのでしょう。

推薦 HP: 知覧茶 HP <https://www.chirantea.com/?lang=ja>

南九州市 <https://www.facebook.com/CityMinamikyushuKankou/>

TENSION 井上好司